中美研会報 No. 143

2019.3.15 中越美術教育研究会　事務局／長岡市豊詰町227 長岡市立上組小学校 〒940-1142 ☎(0258)22-0959　印刷／㈱中央印刷

平成30年度を振り返る

中越美術教育研究会 会長
立川　厚生

当研究会は、中越地区の幼稚園、保育園、小学校、中学校、特別支援学校、高等学校から、多くのご支援をいただき、心から感謝申し上げます。また、事業の開催にあたっては、新潟県教育委員会や長岡市教育委員会からご後援をいただき、また新潟日報社や新潟県教職員厚生財団、日本教育公務員弘済会新潟支部から多大なご援助をいただき、誠にありがとうございます。

今年度は、８月に「夏季研修会」、１月に「中越教育美術展」、２月に「教職員美術展2019」を開催することができました。また、「中越教育美術展作品集」を刊行し、この「会報」を発行いたしました。会員の皆様の工夫と努力、協力のお陰で、充実した取組ができましたことに、心からお礼申し上げます。

今年度の活動の中から感じたことを、次に述べます。

「子どもの思いのよさに学ぶ」

今年度の「中越教育美術展」の授賞式で、最高賞である会長賞に輝いた代表２人が、「喜びの声」を発表してくれました。本作品集にも掲載していますので、ぜひお読みください。

長岡市立和島小学校３年の久住泰雅さんと十日町市立中条中学校２年の滝沢心さんです。この２人の発表から、多くの大事なことを教えられました。以下に久住さんのことについて紹介します。

まず、久住さんの表現の思いが具体的なことです。「お父さんとお兄ちゃんたちといっしょに大すきなおふろに入った時の絵をかきました」「みんなが体をあらっていて、ぼくは、にゅうよくざいを入れたおふろに入っているところです」とあります。家族への思いも伝わってきます。また、「みんなでおしゃべりしたり歌を歌ったりしながら入るおふろは、とても楽しい」「ポカポカとあたたかくて、とても気持ちがよかった」というように、好み・見方・感じ方のよさがあります。

これらの久住さんがもっているさまざまなよさや可能性を生かして、この子らしい想像力を働かせて、発想や構想をしていったことがうかがえます。色や形などのイメージをしっかりともっていることも想像できます。そのイメージを久住さんがもっている創造的な技能や造形感覚のよさを働かせていることも分かります。それは、次の記述からです。「気持ちよさそうな顔になるように目やまゆげを工夫してかきました。ぼくを大きくかいて顔の表情がよく分かるようにしました。色ぬりでは、おふろマットの穴をぬりつぶさないようにこふでを使ってていねいにぬりました。体の色と後ろのかべの色がにているので同じにならないように顔や体の色をこくしたり、かべのぬり方を工夫したりしました。」ここには、関心・意欲・態度の高まりを感じます。それが、創造的な技能につながるのでしょう。

そして、「このしょうをもらって、家の人に『よかったね。』と言われたり、絵をほめてもらえたりして、とてもうれしかったです。」と満足感を表しています。絵が好きになり、自分が好きになり、そして自分に自信をもてるようになっていくでしょう。久住さんの作文と絵を通じて、表現する過程を通して豊かに自己実現している様子が見えてきます。創造活動を楽しみ、喜びを感じていることが伝わってきます。これからも感性を働かせて、豊かな情操が養われていくと思います。

久住さんは、この作文を書くことを通して、改めて自分の表現の思いや考え、表現のよさに気付き、自信を深め、一段と自分の絵が好きになったことと思います。このような、自分が好きになるような振り返り、自己評価を大事にしたいものです。

私たちは、一人一人の子どもの表現の思いを、事前に、あるいは活動の過程で的確に把握することで、適切に支援し共感することができます。また、子どもにとっては、表現の思いを伝えることで、表したいことが明確になります。

私は、久住さんの作文を読むことで、久住さんの思いを理解し、共有できる喜びを感じました。そして、改めて久住さんの絵を見ると、表現のよさが更に伝わってくるとともに、味わい深く親しみが湧いてきます。作品を通して、子どもとのこのようなかかわりができるのも造形活動のよさではないでしょうか。

滝沢さんの絵では、山々の彩りの緻密な描写から育った土地への愛着が、ほのかに光る夕日の美しさから心の清らかさが伝わってきます。光と陰がみごとに調和し、未来に広がる希望を感じます。

平成30年度　中越美術教育研究会　事業内容

●第１回 理事会・代議員会
- 平成30年５月29日㈫　アトリウム長岡
  会務決算報告・予算事業計画審議等

●第１回 研究部会
- 平成30年６月８日㈮　上組小学校
  夏季研修計画

●「第51回 夏季研修会」
- 平成30年８月10日㈮　長岡造形大学
- 参加者30名

●第１回 美術振興部会
（中美展委員会・広報委員会）
- 平成30年９月４日㈫　上組小学校
  審査会計画・作品集・会報原稿依頼等

●教職員美術展 第１回 実行委員会
- 平成30年９月４日㈫　上組小学校
  教職員美術展運営計画

●中美展１次審査会
- 平成30年11月14日㈬　上組小学校
  １次審査員32名

●中美展２次審査会
- 平成30年11月22日㈭　上組小学校
  聖心女子大学　水島　尚喜　教授
  新潟大学　丹治　嘉彦　教授
  東京学芸大学　西村　徳行　准教授

●第２回 中美展委員会
- 平成30年11月22日㈭　上組小学校
  授賞式運営計画等

●第２回 広報委員会
- 平成30年11月22日㈭　上組小学校
  作品集・会報原稿依頼等

●教職員美術展 第２回 実行委員会
- 平成30年11月22日㈭　上組小学校
  教美展案内発送等

●「第54回 新潟県中越教育美術展」
- 会期　平成31年１月９日㈬～13日㈰
  長岡市美術センター
- 入場者数　3,312名
- 応募点数　22,886点　展示点数　702点
- 特別賞授賞式　平成31年１月13日㈰

●「中越教職員美術展2019 ～第24回～」
- 会期　平成31年２月７日㈭～11日㈪
  長岡市美術センター
- 出品点数　63点
- 入場者数　750名

●第３回 広報委員会
- 平成31年２月20日㈬　上組小学校
  中美作品集の校正

●第２回 理事会
- 平成31年３月12日㈫　上組小学校
  各事業の反省と次年度への提言

●「第54回 新潟県中越教育美術展・作品集」の発行
- 作品集　第28集　発行
- 中美研会報143号　発行

第51回　夏季研修会報告

授業づくりのエネルギーを高めた「工芸体験研修」

研究部長　長岡市立柿小学校　永井　毅人

今回の夏季研修は、「日頃手にしない珍しい素材による造形体験を通して、教師が創造性を広げ、授業づくりのエネルギーを高める」ことを目的に、下記のように、３つの講座に分かれて工芸体験をしました。

【内容・講師】

鋳金講座	長岡造形大学准教授	長谷川克義　様
糸紡ぎと織り講座	市民工房講師	齋藤　伸絵　様
パート・ド・ヴェール講座	市民工房講師	近藤　　綾　様

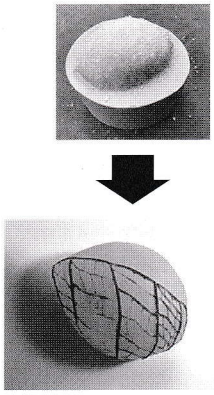
【日　時】８月10日㈮13:30 ～ 16:30

【会　場】長岡造形大学

【参加者】中越地区の小学校・中学校・特別支援学校より33名

【参加者のアンケートより】

講座の満足度　とても満足 87%　まあ満足 13%　やや不満・不満ともに０



参加者のパート・ド・ヴェール作品

参加者の感想（抜粋）

○　制作の手順や使用する材料・用具など、鋳金の技法を分かりやすく学ぶことができた。完成したコースターを日常で使うことができることも嬉しい。

○　「糸紡ぎ」は、材料が高価で道具もないため直接授業では扱えないと思うが、先人の知恵の結晶である足踏み紡績機に奮闘しながら、電動糸鋸機のように子どもにも挑戦する意欲のわく機械や用具に存分に触れさせ、だんだん巧みになっていく喜びを味わわせたいと改めて思った。

○　ガラスという材料を使って制作することは難しいが、ガラスの透過性を生かして装飾を考えるのは面白いと思った。透けて見えるなら、どんな色の組み合わせにしようか、色が重なるなら、どんな割合で合わせようかなどを学習課題にして教室を飾ろうというゴールで制作したら、面白いと思っている。

○　自分が児童になって教わる立場を体験できたことが大きな収穫だった。子どももアイディアがなかなか出ず、決められず時間がかかることが多いが、その気持ちがよく分かった。また、作業途中で道具の使い方が分からなかったりするとなかなか聞きにくくて困ることがあるが、その気持ちも分かり、一人一人の様子をよく見て指導する必要があることを感じた。

○　限られた時間で、意欲を高め作品を完成させるための、事前準備、教材準備・説明の工夫など参考になりました。粘土で形を作る楽しさを童心に返って味わいました。子どもたちが楽しいという気持ちで取り組める題材開発が必要と改めて感じています。使用済みの蛍光灯が、再利用され作品の原料になることや原料の加工のレベルにより作品の仕上がりが異なることなど、環境やECOと絡めて子どもたちに伝えたいと感じました。

どの講座にも、制作に熱中する参加者の姿がありました。

そして、子どもの立場で十分に楽しんでいる背景を考え、今後の授業づくりへの思いをはせる時間にもなりました。

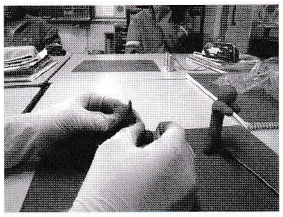
環境・材料・資料を十分に整え、行き届いた指導をしてくださった講師の先生方、そして、素晴らしい講師陣と会場を提供くださった長岡造形大学スタッフの皆様のおかげで、充実した研修会にすることができました。お世話になった皆様、大変ありがとうございました。

日々挑戦
～時代に即した題材づくり～

長岡市立江陽中学校　西野　浩司

美術に携わって、二十数年がたちました。私自身の学生時代とは、社会も学校も価値観も様変わりしました。でも変わらないことがあります。それは、造形活動は「楽しい」ということです。このことを、当時の美術の先生や先輩の先生方から教わり、自分の第一の目標として、生徒に教えてきました。

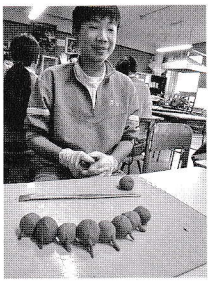
地道にものをつくり、出来上がった時の達成感や、偶然できた模様との出会い、他の人の作品を見た時の感動、どれも、後世に伝えていきたいことです。



また、授業では、ものづくりの先駆者として、例年の題材に満足するのではなく、日々改良や開発を心掛けていきたいと考えています。

今年は、二つの題材開発を試みました。一つは、「４コマ漫画に名画を使って鑑賞」する題材です。不謹慎な使い方かもしれませんが、名画を様々な見方で吹き出しを付け、ストーリーを作るというものです。この題材の面白いところは、教師側から何も言わなくても、子どもたちは、様々な角度から名画を眺めるという点です。生徒もお互いの見方・考え方を共有します。教師もそんな見方があったのかと驚かされます。

もう一つは、粘土や文房具を使った細切れ「ムービー」です。少しずつ被写体を動かし、デジカメで細切れに写真を撮っていきます。それだけでなく、ペットボトルなどの被写体を徐々に輪切りに切っていき、それを逆回しにすることで、あたかも机からペットボトルが生えてくるような作品を作るなど、今までの動かない作品とはまた違った世界が広がりました。生徒も教師も楽しく授業を進めることができました。



世の中が目まぐるしく変わる以上、こちらもどんどんやり方や考え方を変え、美術教育の可能性や価値観を広げていきたいと考えています。

児童が主体的・対話的に創造性をはぐくむ図画工作科の鑑賞実践
～アートカードを使った実践～

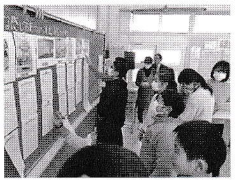
魚沼市立広神東小学校　齋藤　雅文

はじめに

図画工作の鑑賞には、つぶやきのように「声にならない言葉」がある。しかし、子どもに作品鑑賞をさせると「カラフルで…。」「本物みたいで…。」になってしまう。これらの鑑賞の言葉からの脱却を図るために、以下の実践を行った。

感覚をフルに使って感じ合おう、クイズにしよう！

６年生の実践



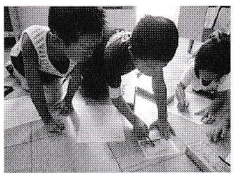
①作品に対する自分のイメージがもてるように、作品をじっくり鑑賞する場を設ける。担任が出題するアートゲームに取り組ませる中で、作品の見方や考え方を子どもたちに知らせる。

②作品に対するイメージを膨らませるために、アートカードを使って「自分のお気に入りの作品選び」をする。その際に、どうしてその作品がお気に入りなのか、子ども一人一人に語らせて、選んでいくようにする。

③自分の考えを整理したり、友達のよさに気付いたりできるように、３ヒントクイズづくりをしていく。作品をどのように鑑賞して、どのような視点や思いでクイズをつくったのか視覚的に分かるように、スケールチャートを用いて整理分別させていく。

アートカードを使って、３ヒントクイズをしよう！

１年生の実践

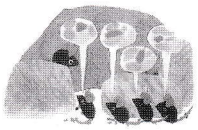


①担任が出題するアートカードの３ヒントゲームに取り組ませ、感じたことを自由に語らせる。

ヒント１　寒そう。風が吹いているよ。風が吹いているから、ふよよよ～んってなっているんだよ。

ヒント２　お菓子の夢を見ているんだよ。お菓子の食べかすがあるから、もう食べた後じゃないかな。

ヒント３　不思議そうな顔をしている。空から何か降ってきたのかな。隕石かな。

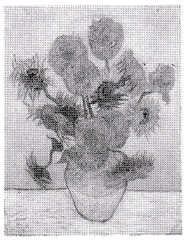


成果　６年生の実践

○スケールチャートを用いて、自分の感覚を再認識、再確認させることで、子どもたちは微妙なニュアンス（感覚）を表すことができた。（子どもの発言：魚が流れていく。魚が吸い込まれていく。うるさいけど、静かそう。）

○お気に入りの作品を事前に子どもたちに選ばせ、自己選択させたことで作品にのめり込まなければならない必要感が生まれた。そして、子どもにとっての必要感は、授業の中で必然的に美術作品をよく見る（鑑賞する）ことにつながった。子どもたちが自律的に言いたいことを語るには、相手に伝えたい思いを膨らませることが大事である。

○鑑賞することを通して、作品の世界から派生的に自分なりの見方をさらに広げ、自分の感じたことを語り、思いを広げている姿が見られた。（子どもの発言：この絵の中の家みたいなところに宇宙人を研究している人が住んでいる。ひまわりの花瓶の中には、水が入っているけど、花がぱさぱさしているから、あまり水が入っていない。）



課題

□子どもたちの自律性支援の仕方として、「子どもたちが語る」ために、担任としては、子どもの表情をつぶさに見取り、子どもたちの発言を生かして、返していくことが大切であることを実感した。

中越教職員美術展2019 ～第24回～

●会期／平成 31 年２月７日㈭～ 11 日㈪
●会場／長岡市美術センター（長岡市立中央図書館２階）
●主催／新潟県中越美術教育研究会
●後援／長岡市教育委員会　新潟日報社
一般財団法人 新潟県教職員厚生財団
公益財団法人 日本教育公務員弘済会新潟支部

No.	題名		出品者	
1	夕焼け妙高	F50	池上　秀敏	元教職員
2	想い出の街角 2018 A	90×110	藤本　市郎	刈羽村立刈羽中学校
3	宮殿	61×54	結城　和廣	長岡造形大学
4	スズダリ川辺	61×54		
5	北のセメント工場	F100	石川　吉郎	大石福祉会こばと
6	錦秋に飛ぶ	50 号変形	桑原　　收	元教職員
7	時の狭間 2019 － 2	40×40	中嶋　　均	元教職員
8	時の狭間 2019 － 1	76×105		
9	嘆	S30	阿部　勝則	十日町総合高等学校
10	二人	F100		
11	人（ひと）	P100	高井　将行	出雲崎高等学校
12	交錯	F100	鈴木　雅詩	栃尾高等学校
13	雪どけ	F50	水落　裕子	元教職員
14	魚野川河岸　待春	F50		
15	うねり	90×90	田村　敏宏	長岡市立西中学校
16	学校の中庭を望む	54×37	佐藤　隆幸	長岡市立関原中学校
17	庭園の眺め	F30	南雲　　学	小千谷市立総合支援学校
18	S	F8	小林　　学	長岡市立黒条小学校
19	八海山	44×56.4	野村　宏毅	湯沢町立湯沢中学校
20	朝のいもり池	F20	濁川　徳一	長岡市立十日町小学校
21	初夏の白馬	F12	上坂　義則	元教職員
22	黒い静物	17×22	丸山　一夫	大手高等学校
23	蓮	F10		
24	あの目の先に	22×100	小林　留奈	向陵高等学校
25	この目の先に	22×100		
26	祖母	8 号	金澤　健志	柏崎市立比角小学校
27	青衣の人Ⅰ	F10	丸岡　昭子	長岡市立太田中学校
28	春立ちぬ	F30	高橋　淳一	見附市立今町中学校
29	折り鶴	F20	田中　大志	長岡市立中之島中学校
30	はじめに,	40×20	石黒　裕子	元教職員
31	子どもたちへの冬のたより	16×24	池田　義広	長岡市立上組小学校
32	凛として	12×18　他	佐藤久美子	長岡市立豊田小学校
33	バラ	17×13	五十嵐由美子	長岡市立上組小学校
34	白鷺	17×13	村山　裕之	県立近代美術館
35	マイッター	60×60	三上　祥司	元教職員
36	リョウイキ	72×92	田中　幸男	小千谷西高等学校
37	リョウイキ	72×92		
38	刃物戦士　キレルンダー	53×37	北村　和則	中越高等学校
39	毒霧魔神　サビサビ大王	53×37		
40	宙Ⅰ	F50	溝口　敏美	長岡高等学校
41	宙Ⅱ	F50		
42	隅っこ	60×91　他	田中美沙子	長岡市立西中学校
43	野菊：X-rays	162×92	中村　　信	見附高等学校
44	Rainbow Glass	53×36		
45	バレリーナⅢ	40×50×40	斉藤　博文	見附市立西中学校
46	バレリーナⅡ	40×50×40		
47	千紗子と Delicious	21×27	田中美沙子	長岡市立西中学校
48	長岡市三島郡美術教育研究会　作品		池田　義広	長岡市立上組小学校
49	長岡市三島郡美術教育研究会　作品		五十嵐由美子	長岡市立上組小学校
50	長岡市三島郡美術教育研究会　作品		田村　敏宏	長岡市立西中学校
51	長岡市三島郡美術教育研究会　作品		巻口　礼子	長岡市立東北中学校
52	長岡市三島郡美術教育研究会　作品		小林　　学	長岡市立黒条小学校
53	長岡市三島郡美術教育研究会　作品		清田　夏樹	長岡市立小国中学校
54	長岡市三島郡美術教育研究会　作品		立川　厚生	長岡市立上組小学校
55	エスキース	28×15×15	村山　裕之	県立近代美術館
56	聖観音	26×14×10	上坂　義則	元教職員
57	春風Ⅱ	30×20×20	柴野ひさ子	元教職員
58	夏の詩	25×50×70	鰐渕紀美子	新潟大学教育学部附属長岡中学校
59	イタズラなくちびる	14×14×20.5	野村　宏毅	湯沢町立湯沢中学校
60	６つの面－Ⅱ	125×50×172	霜鳥　健二	元教職員
61	６つの面－Ⅰ	75×35×190		
62	いのり　Ⅰ	10×11×31	堀田　　正	北陸学園
63	いのり　Ⅱ	10×11×19		

『中越教職員美術展2019 ～第24回～』について

中越教職員美術展　実行委員長 **村山　裕之**

会期：平成31年２月７日㈭～２月11日㈪
会場：長岡市美術センター

今年の出品者は42名、作品総数は63点。中越全般で見ても美術専科の教師が減少している中、本展の趣旨に賛同し、変わらずに出品してくださった方々、新規に出品していただいた方々に、まずもって厚く御礼申し上げます。そのおかげもあり、見応えのある展覧会となり、観覧数もここ最近の中で一番多い750人と大好評でした。

退職された先生方の作品の中では風景画が目を惹きました。夕暮れの妙高山や紅葉に彩られた八海山の絵は、その場の空気感まで伝わってきそうな色使いや筆さばきが見事でした。水彩画や木版画で描かれた海外の風景は、現地でのスケッチを通して描かれており臨場感がありました。

高校の先生方の作品は、公募展や個展に出品された作品も多く、どれも大作で、その存在感と見る者を圧倒するオーラのようなものを感じました。また、バリエーションも豊富で、鉄を溶接した彫刻作品は絵画と違い、周囲の空気を変える緊張感を放っていましたし、ミクストメディアの抽象作品も独特の世界観を醸し出していました。

今年目新しかったのは、授業の見本として制作された作品が新鮮だったことです。高校では、見本として描いたというキャラクターの絵、中学校では、絵本や紙バンドで作られた立体デザインがあり、それぞれ授業の様子が想像できる教職員展ならではの趣向となりました。

そして、今回嬉しかったのが、小中学校の先生方の出品数やバリエーションの豊かさ、技術力の向上、新たな表現の追究が見られたことです。モチーフの変化、表現手段の変化、日々の中で新しい自分づくりに励まれていることに感心するばかりです。

日頃、子どもたちと共に過ごす先生方にまとまった時間はあまりとれないと思いますが、この展覧会に向けて計画的に制作をされている方や研修会へ積極的に参加して出品してくださる方が増えてきたことは本当に心強く感じています。

これからもお互いの表現力や技術等から刺激を受けながら自分の美を追究し、教職員の表現や行為が子どもたちや周りの人たちに大きな感動や豊かな感性を育む一助となっていくと確信しています。

最後に、展示や搬出にご協力いただいた皆様や事務局のご尽力並びに葵屋画材店様からの多大なるご協力に、心から御礼申し上げます。

今後も本展がさらに充実し、発展していくことを願っております。